

# 道徳科学習指導案

六ツ美西部小学校 1年1組 林 徳一

1 教材名 「ジャングルジム」

2 ねらい

①自分の好き嫌いにとらわれず、誰とでもなかよくすることの意義や大切さに気付く。

②相手の立場を自分事として考え理解することで、やってはならないことをしないための判断力を養う。

3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 友達と仲良くできなかったことを想起する。 ・嫌な言葉を言って怒らせてしまった。 ・鬼ごっこでタッチされたかされてないかで言い合いになってしまった。 2 資料の範読を聞く。 3 本時の学習課題を決める。	・児童自身の生活の様子を想起しやすいように、けんかの資料を見せながら問いかけ、課題意識をもたせる。
展開 (35)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         だれとでも なかよくするには どうすればよいのだろう。                     </div> 4 場面ごとの3匹の気持ちについて想像する。 ・入れてもらえないねこちゃんは悲しかったと思う。 ・くまくんのひどい言葉で、さるくんは困っている。 ・さるくんはみんなで遊べばいいと思っている。 ・くまくんは、1人で寂しそう。 5 どんな話をして、3匹は仲良く遊べるようになったのか、3匹になったつもりで演じる。 ・昨日はひどいこと言ってごめんね。(くま) ・いいよ。くまくん一緒に遊ぼう。(ねこ) ・僕もみんなで遊びたいよ。(さる) 6 3匹のように友達とうまくいかなかったとき、自分だったらどうするか考える。 ・自分の悪いことを謝る。 ・一緒に遊ぼうと誘う。 ・みんな話し合う。 ・友達がどうしたいのか聞く。	・児童が考えやすいように、3匹の動物の気持ちに変化する部分を重点的に扱う。 ・動物たちの気持ちが視覚的に捉えられるように、表情が変わるイラストを用いて板書する。 ・役割演技でのやりとりの中で、「いいなあ」という言葉を探すように伝えた上で演技を見させる。 ・意図的指名をしたり、1匹を教師が演じたりすることで「めあて」に迫る会話にする。 ・役割演技から発問への流れが切れないようにするための配慮として、子供たちの意見を引用し、中心的な発問へとつなげる。 ・役割演技の中で言った言葉や、板書に書いてある言葉の中から選んでもよいことを助言する。
整理 (5)	7 「どうとくのおと」を記入する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                         ころわあど (授業で心に残った言葉)                          ・みんなであそぶ。                          ・わるいことはあやまる。                          ・ごめんね。いいよ。                     </div>	・「めあて」につながる「ころわあど」を書くように伝える。 ・机間指導を行い、記入できていない児童の支援をする。

4 評価

①登場人物の気持ちに共感したり、友達の考えを聞いたりすることを通して、誰に対しても平等に接することは、仲間との友好的関係を築くために必要であると気付くことができたか。(活動4, 5の発言から)

②周りの人と仲良くするためには、どうしたらよいかを考えることができたか。

(活動6の発言、活動7の記述から)